

U.K.

英国若手アーティストが考える「錬金術」あれこれ。

GREAT BRITS 2005

エスコルテ青山イベントゾーン。港区北青山2-7-15 ☎03-3235-1873。エスコルテ青山内のcafe growna growna Tokyoでは「DESIGN UKカフェ」が期間限定オープン。



マティアス・メジャーリ

防犯の概念を覆す、ユニークな作品を出展。キュートなスマイリーティペアの南京錠や、先端に動物のモチーフを飾ったフェンスで、楽しく可愛い防犯ライフがエンジョイできそう。機能性もバッチリで、言うことなし。



バスカル・アンソン

展示会の入口にある、ラブアンドヘイト・ステッカー (左) は、誰かが好きなもの、嫌いなものを書いて初めて完成。廃材で作ったアルファベットのオブジェ (上) は、壁に飾っても、棚として使ってもよしのファンクショナルな作品。日本通の彼は、大のカラオケ好きです。

ピーター・トラグ

ピーターが大切にしているのは、作品の製作過程。プロセスの常識にとらわれることなくの作りをするので予想外の出来上がりになるからだとか。内側に膨張するポリウレタンを詰めた椅子は、座るたびに表面の生地にしわが出来、新しい表情を見せます。



ジュリア・ローマン

一見、茶色のソファ (左)。しかし、これは牛の骨格に牛革を張ったソファなのです。この作品を通して、人の生活がほかの動物の犠牲の上に成り立っていることを伝えています。オレンジ色のランプ (下) は、よく観察すると不規則な模様が…。実は羊の胃袋で出来ています。



マイケル・クロス&ジュリア・マティアス

既存のものに手を加えるだけでなく、斬新なアイデアを加え、素材の新しい価値を見出していくことがテーマ。スリランカのジャングルからインスパイアされた流木のオブジェ (下) は本棚にもなる便利なもの。



ひと足お先に始まったデザインイベント、「グレート・ブリッツ」展に行ってきました。外苑前駅を出ると、突如現れたスケルトンドーム、エア・キャビン。武松幸治がデザインした立派なテントハウスの展示会場からして、インパクト十分です。今回は、イギリスで活躍する大注目の若手デザイナー5組が参加。テーマは、展示会のサブタイトルでもある「新時代の錬金術師」。簡単に言うと、日常生活にあふれているもの

を使い、さらにお金になるものを作っちゃおうってこと。キュートな防犯グッズから、不要になった中古家具などにひと手間加えて再生させたものまで、アイデアいっぱいの「錬金術」が堪能できます。

花瓶、電球などこの家にもありそうなものを使った斬新な作品を発表したのは、マイケル・クロス&ジュリア・マティアス。「子供の頃に電球を水の中に入れてみたくて、ウズウズしてた時の気分を思い出し、電球

とケーブルを水の入った花瓶に沈めてみました (写真上)。これは危なくないよ、なぜ大丈夫かは企業秘密」とマイケル。

会場の3分の1を占めるほど、多くの力作を出展しているのはバスカル・アンソン。「廃材に手を加えて手作りの温かさをということではないんだ。温かさより何らかのパワーを新たに注入するって感じかな」。

ほかにもユーモアあふれる作品から、ちょっとダークなものまで見ごたえ十分です。

猫村さんのスケジュール帳

TODAY 今日のイベント

【フォーラム/トーク】●「コンセプトデザインの重要性」ソニー、戸塚恵Xエレファントデザイン、西山浩平によるフォーラム。16時~17時。「これからの住環境デザイン」INAXXセラトレディングによるフォーラム。17時~18時。東京外苑前会場にて開催。詳細はイベントページをご覧ください。



デザイン五番勝負! 真の巻

ナイスバディ